



## 黨政の難苦

## 政民聯携劇！

政情の急變せぬ限り

當分は掛聲のみか？

臨時閣議を開き  
十年度豫算計議

查定總額二十億四千万圓

〔東京發〕政民聯携は議會政治への還元目標に床次氏の除名後を由来、山本兼太郎、前田米藏氏等によつて主張され、これに一國一黨を念願となし來つた久原房之助氏も加つて黨内に一つの空氣を作りつゝあつたが、最近に至り鈴木總裁系の川村竹治、宮田光雄、山本第三郎、氏等も積極的にこの運動を支持するに至り遂に鈴木總裁も山本兼太郎、前田米藏氏に對し、この運動に賛意を表しその實現に盡る盡力を依頼するに至つたので、政友會ではこゝに亘頭一致聯携に邁進する形勢となり黨内の意見を重視した上で、政黨に對し眞諦的の折衷をなす事に決した、併し乍ら實際問題として政黨でもこれに對する態度を決した。

## 若槻男引退か

後任者に町田說有力

民政黨幹部、連日協議

〔東京五日〕若槻民政黨總裁が去る一日辭意を表明したに對し、民政黨幹部は男の辭意を懇請す

し正式に申出でのある場合に

若槻母木、川崎より政友會有志と

三者が各々其の運動の目標を異にし、何れも自己の立場を合

田、川崎、依、櫻内、永井等の諸氏參集して政民聯携に關して定する必要から首腦部會議を開いた。

〔東京發〕政友會が政民聯携に對する態度を決した。

〔東京五日〕今朝來年度豫算に四百七十八万圓でその内譯は、震災復興公債七〇〇萬圓、道路公債四〇〇萬圓、満洲事件公債一〇〇〇萬圓、赤字公債四〇〇〇萬圓、外債六八〇〇萬圓、大藏省四〇〇〇萬圓、陸軍省四〇〇〇萬圓、海軍省四〇〇〇萬圓、三三、五〇〇〇萬圓などである。

〔東京五日〕若槻民政黨總裁が去る一日辭意を表明したに對し、民政黨幹部は男の辭意を懇請す

し正式に申出でのある場合に

若槻母木、川崎より政友會有志と

三者が各々其の運動の目標を異にし、何れも自己の立場を合

田、川崎、依、櫻内、永井等の諸氏參集して政民聯携に關して定する必要から首腦部會議を開いた。

〔東京發〕政友會が政民聯携に對する態度を決した。

## 悲觀される豫備會談

言論界悲觀說を唱ふ

「ロンドン卅日」今日の會談も

兼ね日本に同情するものもあり

アジアにおける勢威は保障で

米國側は依然現勢で、保険で

アジアにおける勢威は、保障で

対反対を持し、アメリカとして

現行の規定が最も満足すべき

ものとしてゐる、これに對し日

依然として絶對平等及び

能力を擧げ得る總數制限並びに攻撃及び防禦艦種の決定を主張して讀らぬ有様である

一方英國は小艦多數主義には賛成であるが日本側提案の總

順數は極く僅かしか英國のそ

英國側では米國側の

佛伊各自の立場から  
我軍縮案に同情

コロノ募集

コロノ又はアメリカにて四、五家族コート

コロノ又はアメリカにて四、五家族コート

コロノ又はアメリカにて四、五家族コート

コロノ又はアメリカにて四、五家族コート

コロノ又はアメリカにて四、五家族コート

コロノ又はアメリカにて四、五家族コート

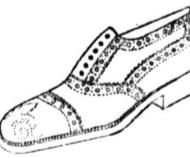
コロノ又はアメリカにて四、五家族コート

コロノ又はアメリカにて四、五家族コート

コロノ又はアメリカにて四、五家族コート

特價提供靴定期大賣出

すばらしい廉價版!!



如何なる型も如何なる  
御値段のも取扱へて  
います。般方用、御婦人用御子供用、新流行型各種

CASA ELITE R. da Liberdade, 108 - Tel. 2-2139 S. Paulo

今一應若槻男の辭意を懇請する黨内では後任總裁として町田商任總裁を推薦して貰ふこと、若しどうしても承諾相を推さうとの聲が高い、因になき場合は同男に依頼して後若槻氏の引退は政民聯携問題の解决するに對する態度を與へるものとして

任總裁を推薦し委員を選んで散會に臨むべきである

に一致して、即ち若槻氏の辭意は到底望み薄く、憂慮されてゐる前途に暗影を與へるものとして

に一致して、即ち若槻氏





女性に自転車は  
絶対に良くない



話の種

女性の自転車乗用は、交通機關の少ない田舎では可成り以前から色々盛に利用されてゐますが、最近では世界中の若い女性、特に女学生間にこの自転車乗りが一つのスポーツとして著しく流行し始めた、ところで自転車乗りは若い女性の身體に果して良いものだらうか? 或は何か弊はないではないだらうか? ……この疑問に對し岩田博士は左の如く説明してゐます……

處女

## 處女 (三)

總て天然は、その生物の要求に應じて順應してゆくもので、昆蟲動物に保護色を與へたり警戒色を與へたり、不可思議な方角の本能を與へたりしてることを考へると、太古以來人類の切望して止まなかつた歴史が長い年代の間に少しづゝ順應されて皮膚の一部が處女膜といふやうなものに變形されて來たといふ事も全然不合理とは云へまいこの人類に於ける處女膜といふものは、大體中央に梢圓形の小さな孔を殘してゐるものであるが、その形狀や發育には種々様々の變化のあるもので、稀には全然閉塞してゐたりすることもある、小野小町などこの類であつたかも知れない

的にはち間じて眞にわざわざおもむろにあらわすので、専門家が見ればその方で破瓜の場合は何かの損傷の場合は明かに違つて居り、鑑別がつくのである。破瓜以外の損傷としては何か尖つたもの、或は角のある物體とか或は自潔行為に依つてものである、極稀に處

る例は極めて稀である

處女性が失はれる際には疼痛と出血との下に處女膜が破れると、併して處女膜が破裂する事による疼痛があり、出産時に必ずある筈であるから、徒らに白ら損する事を恐怖する必要はない。

年前に研究発表されたもの  
處女の血は男子の××の一部  
を分解する能力はないが、  
女性を失つた婦人の血液は  
×を完全に分解するに至る  
である。又精糸に處女の血を  
滴下して顯微鏡下に見る  
數時間の間その運動を抑制  
ないが、非處女の血液ならば  
忽ちこれを抑制してしまふ  
いふことである(つづく)

V KINJO

CIRURGIAO DENTISTA  
R. Christovam Colombo, 3-3<sup>rd</sup> and.  
PHONE. 2-8058 - S. PAULO

齒科醫

金城山戶

全病者に効果的  
な如々難き

研究實驗許用聲果·愛特·名効

**CLINICA DENTARIA**  
Rua C. de Sarzedas, 10 - Tel. 2-3029

村上眞一郎院歯科

HOTEL BASTOS

面の御観察者には特  
御便利を計ります  
汽車發着の度毎に御  
迎ひ致します  
●正直本位。  
弊館の自動車一三四  
を御利用下さい

**DERBY PAULISTANO**

機械競馬の快走

アベニーダ・サンジョオノ五八八  
(シネ・ブロードウエイ隣)

パウリスター  
タービー

必ず皆様の  
興味を喚び  
快い設備ご  
霧園氣は  
皆様の御満足を  
保證します

入場無料

是非一度御試し下さい

## キモノ姿で 列車サービスに乗出せ ……北米の第二世

北米の第一二世

DR. H. SAITO  
MEDICO  
Rua Inconfidencia, 6-35 - Baurú

醫學士

齋藤等

バウル市 = 電話二六九

石材建築、墓石、記念碑  
石像、石燈籠  
其他の美術彫刻の御注文に應ず  
内畠祥光  
工場 R. dos Estudantes,  
自宅 R. C. de Surzedas,  
(fundado)

四、  
尚詳  
各

位  
在ブラジル日本人同仁會  
九三四年十月三十一日  
細は同研究所の新聞掲載廣告を御参照あれ  
住する者  
共十キロ以上距れたる地方に居  
薬箱内容と同一  
大河内薬化學研究所發賣の家庭常備藥箱内容

を去る十八年、二十才の時工で石を叩いてゐる時ノミがかて飛込んだのが十八年間スネかじり、かじり疲れて蚊の食跡から出てきたものと判つた  
東京深川はれた右医だので醫が、この川嶽まで出かけて行つて自殺といふが、遺書といふのが  
分厚さ五  
きた、御  
これは今  
「これでナボレオンも秀吉 小野小町もワシと一緒にだ」

場はホザイたりな  
け▼ミヤコ腰巻の行衛？……御婦  
人の大切な腰部を護る騎士？ミ  
ヤコ腰巻、あの廢物はハテどこ  
へ行くと思召す？御主人の中折  
に化けるといふからコワイよう  
なものデス、腰の物が頭に乗る  
とは……この他毛布の材料へも  
向けられるがこれほど原料にな  
る所を見てもいかに大量の廢物  
が出るか察しがつくといふもの  
疑ひがありません」「サテも血  
に漬になるので皆さんには極  
て不思議でせうが、これだけは  
するほど困る場合は輸血で妙  
よつて、むしろ健康状態が  
進する様な氣持がする、間  
などと困る場合は輸血で妙  
とある  
そんなに輸血して差支へ  
のかと聞くと御當人すまし  
もので、「私は輸血すること  
のなかと聞くと御當人すまし  
の氣持がする、間

のめ常癪 痛増にたい  
**PHARMACIA IRIS**  
11 de Agosto, 72 - Telephone, 2-4092 - S. Paulo  
度量衡器店  
一<sup>流</sup>醫家より  
定評ある  
**イリス**・  
**薬**局

謹 告  
御待ち兼ねの家庭常備薬箱が出来ました  
した御希望の御方は左記の價格、條件等御含みの上可成早く本會宛御申込下さい  
一、價格 一箱四〇ミルレース（定價七〇ミル  
の内三〇ミル本會負擔）



## 日米抗対の跡をくくる

日本の陸上競技界がその向上過程における實力強化の重要な手段として日本米對抗競技を行った目的は東京及び甲子園における二回の戦によつて殆ど全うされた。差支へば、この対抗戦は第一義的で國陸上界の既成新興との間に第一の目的があるに東京で總得點八點表するチームを対象としたが、東京で敗れし日本軍は甲子園に二點の開きをつけて、甲子園における勝利の直接の原因は最後の瑞典艦走における失策にあり、若しあなかつたならば依然米軍が世界記録保持者マーブラム・カニンガムを焦慮して敗してゐたとしても、併しそれを以て日本軍に優位的なものと看做出來ない、たゞこれによつて今年度米國學戦における日本軍の猛威は完全に米軍を壓倒しきる。記録を作つた米の新銃が一四秒六といふ世界記録を以つて今年度米國學戦で吉岡が東京で二百米で吉岡が東京でスを降服せしめた等の人の蹟跡なく世界に向ふる日本の威力で、米

# 陸上日本の大躍進



が一五米七二の世界記録を作つて以来日本の三段跳は、一時停滞の観があり一方藻洲、芬蘭等における優秀記録の出現は「三段跳日本危し」の聲まで起るに至つてゐたが大島、原田の偉勳に絶よつてこの憂慮は解消したといつてよい、兩選手を英雄視してではなくこの記録が後進者に絶大な刺戟と自信を與ふべきを期待するからである、數多の日本新記録のうち最も喜びを感するのは青地による八百米と田中に一千五百米である、中距離において如何にスプリントが大切であるか、また如何に積極的走法が必要であるかはこの兩記録によつて十分に證明された、同時にわれ／＼は朝隈の二米征服はゆる「跳躍日本」が從來最も氣恥かしさを感じてゐたのは走高跳であった、他の跳躍競技に比し走高跳が國際的に最も低調なまづいたからである。

陸競聯盟結成最初の大會で、實質はサン・パウロ青年會主催で、いきなり投擲への注意を集中して、いきなり投擲に熱中をしてゐることは、身體の未だ適はない。以後は腕肩等を整へ、そして足及び全身の調整後競技を始めたが、随分無理があつた。唯根本君の出發合員丈けは、絶大の讚辭を與へ得るとして、有つたことであらうが、役員には來ない唯熱心振りに丈けは敬意と謝意を表する。計測器が全部正規のものでなかつたのが第一に此競技會の構成を墜す、のみならず如何に前云て記録に及ばなかつたからと云はて云で走高飛、棒高飛の計測も、しなかつたことは看過出来ない。本年の一米六〇(或は三米二〇)は正式に邦人陸競聯盟記録として登録出来ないものとなつてしまつた(インチキならいざ知らず)。次に六選手の入賞トラック競技に於ける五コース、此れも今後は役員が競技會の權威を保つために極力奔走して六コースの競技場にして貰ひ度い。總領事閣下を名譽會長に持つて聯盟であり且つ今後の進歩を期するが、未だ出場選手諸君の名前を知悉してゐない爲め将来を約束される様な選手諸君も澤山日受けたが今となつては思ひ出せない。

當方米國人家庭（ジャルデン）アメリカ住居）食卓給仕及掃除係の有るモリソを求む、身許明持参のことと面談上記年前三月三十日正午迄申候。右記は左記へ  
聖市コンセレ1ロ・フルード街小川旅館内 藤井町  
カーザ・パウリスター+  
定期大賣出し  
殿方用高級服飾品を、  
代未聞の御質段で、  
是非一度弊店へ  
公認バウリスターノ裁縫女學  
婦人服、子供服の裁縫を親切  
に教授致します。バウリス  
延長線ボムベイア町

This block contains two images: a black and white photograph of Mount Fuji on the left, and a stylized logo or emblem on the right.

馬鈴薯の施肥には  
アンモニア・ボリ前記調査  
着 = 昭和十年一月二十日  
同三月二十日  
賃 = 出帆當日の對米替爲相  
七才以上十二才迄半額  
他 = 出國稅並に同附加稅  
ル内外は御自辨に願ひ  
行動 = 横濱着と同時に帝都  
日、東京日々の兩新聞部  
の誇るべき諸機關を  
御勸誘を願上ります  
行動 = 出國の場合警察其他で  
團員は大人二百名以上

An illustration showing two men from behind, wearing hats and coats, looking down at a map or a set of documents spread out on a table. One man is pointing towards the map.

フオスコ  
ヒテル  
ス |  
調合肥料又は濃厚  
えてあります

…御照會は上記エレケイ

サントス出帆りおでじやわ  
神戸着  
場に依る船質に對し割引致し  
四才以上十二才未満四分ノ一  
(二分稅)その他警察願書に貼付  
ます

手續が必要ですがそれ等の手續  
を以て組織する事になつて居ります

訪れ宮城、明治神宮を奉參拜の  
時・海外興業會社を歴訪する外  
特に我軍部の好意で參觀出来る  
こそ非常時祖國を再認識す  
るに御申込と同時に豫約金とし  
金五百ミルレースも申受  
支拂ひ願上ます、御送金  
にて左記へ願ひます

PAK SHIMBUM - Caixa P  
ン |  
昭和十年一月十日限り

主催

日伯

後援

大阪商

海外興







## 來年の移民

油斷はならぬが

絶望でない

に憲法に厳然と規定されてゐる間これを如何に有利に解説し適用するか問題で、本條が移民とは全く關係ないかと謂はれてゐる、尚非日運動の策源地と目された例のアルベルト・レス友の會はその運動方法が余り奇矯に變つたため識者のひんしゆくを買ひ質的の力を失つてゐるが、假令有名無實にせよ依然機會ある毎に我方に不利益な策動に出る掛念あるので彼らに好資料を與へぬよう

在留民としては十二分の注意を拂ふ要があるとされてゐる

## 澤田大使、年末着任

内山氏は參事官として

移民工作に盡力か

東京來電によれば新任駐伯大使澤田節成氏は来月初旬東京駿アメリカ経由來着の模様であるが在任期間は餘り長くなく通商井に移民問題の大綱決定次第稱々第一年以内に引上ける意向なる旨

### チエテ移住地へ

### 罐詰工場設立

ソロカバナ線  
アラ・クワラ線  
ドラデンセ線  
バウリスタ線  
モヂアナ線  
ジユキア線  
リオ市  
其他

内外人約五百名參會

先づギレルメ神父のミサ、聖歌の奏樂あり、續いて大野氏の故人歎頌讀、中野支店長

代理、仁戸田郷の燒祭あつて式を開ち、一同茶菓を喫つた

ながら故人の追憶談に耽つた

尚白鳥氏は歸國に先立ちその藏書を多數レヂストロ館に寄贈したがそれは白鳥文庫として永久に記念することとなつた

尚白鳥氏は歸國に先立ちその藏

書を多數レヂストロ館に寄贈したがそれは白鳥文庫として永久に記念することとなつた

尚白鳥氏は歸國に先立ちその藏

# NIPPAK SHIMBUN

Jornal Nipponico de maior circulação no Brasil

Anno XX

São Paulo - Quarta-feira, 7 de Novembro de 1934

Num. 909

## NIPPAK SHIMBUN

Diretor-Proprietário:  
SACK MIURA

Redação, Administração e Oficinas:  
Rua da Liberdade, 144-A e 146  
Caixa Postal, 375  
Telephone 2-3926  
Endereço Telegráfico: "Nippak"  
SAO PAULO - Brasil

### ASSIGNATURAS Para o Brasil

Por anno . . . . .	30\$000
Por semestre . . . . .	15\$000
Número avulso . . . . .	\$500
Para o Exterior . . . . .	
Por anno . . . . .	60\$000

### Annuncios

Temos à disposição dos interessados uma tabeli completa de preços para annuncios nesta folha. Telephone 2-3926

## Exposição Internacional de Yokohama

Em comemoração à reconstrução da cidade devastada pelo terremoto de 1923, a municipalidade de Yokohama resolveu promover na primavera de 1935 uma grande exposição de carácter internacional, com exibição completa de produtos do paiz e de procedencia estrangeira, tendo sido feito, por intermédio da embaixada do Nippon no Rio de Janeiro, convite oficial ao Brasil de participar nesse grande certamen.

A exposição se realizará em área adjacente ao Yamashita Park e será franqueada ao público de 26 de março a 24 de maio próximos.

Os principais standes estão assim distribuídos: a) Indústria de manufaturas; b) Indústria química; c) Indústrias eléctricas e mecânicas; d) Indústrias florestais, de produtos do mar e mineração; e) Patentes e invenções; f) Arte e ciências; g) Indústrias de marinha, portos e aviação; h) Indústria de transporte e turismo; i) Material de história da reconstrução das cidades; j) Outras exposições.

As inscrições devem ser feitas até 25 de dezembro próximo vindouro. Maiores detalhes poderão ser obtidos na secção de Serviços Comerciais do Itamaraty.

## Competição atlética entre nipponicos e brasileiros

A Federação Paulista de Atletismo promoverá no próximo dia 25 deste mês, no campo do Club Athletico Paulistano, um importante festival esportivo, constando de uma competição entre os representantes da colônia nipônica de São Paulo e os nô-vissimos do atletismo estatal.

Além das provas constantes da competição acima, haverá um revesamento para colégios, menores de 14 anos.

As provas da competição com nipponicos são as seguintes:

100, 400, 1.500, 5.000, metros rasos, revesamentos de 4 x 400 metros; saltos de altura, de extensão, triplo e com vara.

A remesso do peso, do disco e do dardo.

As inscrições para a importante competição serão recebidas até às 18 horas do dia 16 do corrente.

## Notícias e telegrammas do Nippon

(Serviço especial do NIPPAK SHIMBUN e dos Jornais)

## Conferencia Naval de Londres

A paridade naval absoluta é agora uma vontade inquebrantável do povo nipônico

Prosseguem desanimadas as conversações — Diversas notícias

### As conversações em torno das questões navais a serem discutidas nas reuniões plenárias da proxima Conferencia Naval de Londres, firmaram-se, ultimamente, no caso da paridade naval, em que estão empenhadas as três maiores potencias marítimas: Inglaterra, Estados Unidos e Nippon.

Observa-se nos meios autorizados de Londres, que não existem diferenças insuperáveis entre os pontos de vista sustentados pelos delegados britânicos e norteamericanos.

Os E. E. U. U. demonstraram que as exigências feitas pelos nipponicos, em torno de uma quota máxima commun, conduziram inevitavelmente a uma seria competição naval. Os delegados norteamericanos recusaram ainda reconhecer os argumentos desenvolvidos pelos membros da delegação nipônica, no sentido de que, em face de suas crescentes responsabilidades, o Estado Livre do Mandchú Kuo, necessitaria de uma marinha maior e mais numerosa, que podesse satisfazer as respectivas necessidades.

### Ameaça de fracasso

Personalidades de responsabilidade nos círculos navais, revelou que a delegação nipônica recusou-se a ceder uma linha nas solicitações já formuladas, de participação de tonelagem militar para o seu paiz, com relação às frotas americanas e britânicas.

O sr. Macdonald, chefe da delegação inglesa, assim referiu-se sobre o assunto: "Estamos correndo grandes riscos, em nosso empenho de mostrar ao mundo que somos inteiramente pela paz, a ponto de reduzir ao mínimo nosso poder defensivo, mas quer tornar patente que isso é necessário, em vista do exemplo que deve mos estabelecer como nação, depois que o paiz tiver dado os passos necessários, à proteção de nossa liberdade".

### Denuncia do tratado de Washington

Em rodas niponicas bem informadas afirma-se que as autoridades de Tokio estão resolvidas a denunciar o Tratado Naval de Washington, iniciando a construção de navios dos tipos julgados mais úteis à defesa do Archipelago Nipônico, só desistindo de tal propósito no caso das duas potencias, anglo-saxónicas aceitarem as propostas que estão sendo sustentadas pelo embaixador Tsuhako Matsudaira, o que viria a dar no mesmo, pois tais propostas culminam na exigência de paridade global de tonelagem, reconhecendo-se a cada potencia o direito de construir qualquer categoria de navios. É incontestável que os círculos do governo, em Tokio, mostram-se divididos de que as propostas Matsudaira sejam aceitas, donde também se julga que as perspectivas são sombrias, pois o entrochoque das conversações preliminares dá margem a que se entreveja um triste colapso. Segundo o que se vê sabendo da impressão dominante em Washington, julga-se lá que há margem a que os esforços preliminares em busca de entendimento, possam ser prologados, empregando-se entre outros recursos aqueles de consultas aos governos de Paris e Roma, formuladas, pelos menos, indirectamente.

### A Paridade Naval

O embaixador do Nippon em Washington, sr. Saito, afirmou de maneira definitiva a vontade do Nippon de obter a supressão da relação 5.5.3.

Declarou ainda que a honra e o orgulho nacionais sentiam-se feridos pela marca de inferioridade que a proporção actual constitui para os nipponicos e acrescentou que na ocasião em que foi firmado o tratado, a renúncia dos Estados Unidos de fortificarem certas zonas do Pacifico, constituiu uma compensação que desapareceria com a eficiente grandeza da sua aviação.

Declarou que o Nippon desejava antes de tudo a redução das forças navais, mesmo em proporções consideráveis, indicando todavia, que se devia, então, tomar em consideração as marinhas da França, Itália, Hollanda, Alemanha e Argentina, porque não ser inferior a ninguém.

Por outro lado insistiu em que o Nippon não se oponha a um pedido desses países para aumentar as suas frotas até entrar em concorrência com as do Nippon, visto isso constituir uma questão de orgulho nacional que elles tinham o direito de satisfazer da mesma forma que o Nippon.

Terminando, disse que a população nipônica está unanimemente convencida da justiça dos pedidos nipponicos. As perturbações da política interna e os atentados ocorridos nos últimos anos, eram consequência da assinatura do tratado e a vontade do Nippon agora era inquebrantável.

Naq diz que as questões de diminuição de tonelagem podem ser consideradas como definitivamente afastadas.

### Apreciação geral

Os delegados nipponicos não mostram inclinados a entrar em questões de pormenores antes da aceitação do duplo princípio da paridade e da limitação global dos armamentos navais.

Os delegados norteamericanos, por sua vez, não estão menos dispostos a guardar inteira reserva, enquanto a delegação nipônica se limitar a apresentar considerações de princípio, alias rejeitadas pelo governo de Washington.

As dificuldades encontradas pelos negociações são de tal ordem que os esforços de mediação da Gran Bretanha à tarde de hoje tenderam especialmente a convencer a delegação norte-americana da conveniencia de não interromper as conversações.

Como quer que seja, a hostilidade dos delegados norte-americanos às propostas nipponicas confirmara-se de modo tão definido que não é facil imaginar que

terreno de entendimento poderia ser sugerido pelos negociadores britânicos.

Em outros meios afirmava-se que a posição para os círculos oficiais britânicos era a seguinte: se o Nippon propusesse a fixação da tonelagem global em nível bastante elevado para ser difficilmente atingido pela esquadra nipônica, seria possível que se tornasse menos energica a resistência britânica, mas, se a segrestaria nipônica comportasse qualquer redução da frota britânica, o governo de Londres manteria a irredutibilidade.

O outro ponto de difícil conciliação entre os negociadores britânicos e os nipponicos é o que se refere à discriminação entre armamentos navais ofensivos e defensivos, these inaceitável segundo o ponto de vista britânico.

O barão Keijiro Wakatsuki, presidente do partido Minseito, pediu a sua demissão daquele cargo no dia 1º deste mês.

A demissão causou certa emoção nos meios políticos de Tokio, porque a renúncia do barão Wakatsuki veio na véspera da campanha em prol da fusão dos dois grandes partidos, o Minseito e o Seiyukai.

A fim de solucionar a questão do pedido de demissão do sr. Wakatsuki, os membros do partido Minseito estão em constantes reuniões, planejando a volta daquele chefe ao seio do partido. Caso essas negociações sejam impossíveis ficará na presidência o sr. Machida, actual ministro do Commercio.

### Os nipponicos estão concorrendo com os produtos da industria norte-americana

Recebidos pela comissão federal encarregada de obter documentos para a elaboração de tratados comerciais de reciprocidade, os representantes dos patrões e dos operários da industria de videntes dos E. E. U. U., que tinham sido consultados sobre o projecto de tratado com a Belgica, se oppuseram energeticamente à redução dos direitos aduaneiros para as mercadorias belgas, redução essa que deveria ser extensiva ao Nippon, à Alemanha, à Tcheco-Slováquia e a outros países.

O assumpto vai ser estudado pelas autoridades norteamericanas.

六五四三二一 果ものじ化  
作、レ、作、のす、妙適、樹の欠土肥  
物燃く燃物燃地燃宜燃効 桃は芝地肥料  
え粉は粉には粉には作は作は作は作は  
供は有は生は盛其は作は作は作は作は  
給水害土育土ん性運根物肥用 等に粉にあ  
調分菌中で地に作をあに料 用は單用に非  
節を助の生失をる發供を ありますする事  
す保無有く温育は忌事育給吸 ます、それ  
る有害害る熟すむを收助の保 は肥効を  
しに化事を年作助の保 ます下さ  
適す合増事々物く事有し 蔬を補ふ  
宜る物に事若て一施 粉■ 理想有機肥  
モニタ ■ 粉 ■

## A entrada dos estrangeiros e a nova Constituição Brasileira

BRUNO LOBO

(Prof. da Universidade do Rio de Janeiro)

O Governo Brasileiro deve estar seriamente constragido ante a situação criada pela nova Constituição Brasileira referente a entrada de estrangeiros em o Brasil.

Basta referir, inicialmente, que a quota de 2% applicada aos americanos do norte fixados no Brasil nos ultimos cinquenta anos só facilitará a entrada aproximada de uma centena de pessoas, numero ridiculo que não permitirá sequer a substituição dos directores das grandes empresas americanas...

Fallando-se sempre na solidariedade dos países centro sul-americanos é útil também referir, para apreciar o risco amarelo e inconsciente dos apaixonados legisladores constituintes, que, levando em conta o criterio adoptado de 2% sobre os nacionais fixados nos ultimos 50 annos, não poderão entrar por anno em o Brasil aproximadamente mais de 6 mexicanos, 11 bolivianos, 15 peruanos, 1 cubano, 3 paraguayos e assim por diante.

A sagacidade legisladora de um pequeno grupo cuja paixão fez com que a Assemblea Constituinte chegasse a estabelecer na Constituição Brasileira, semelhante absurdo, expõe portanto, neste momento o nosso paiz a uma situação verdadeiramente ridícula.

Diz a Constituição Brasileira:

Art. 121 -- A lei promoverá o amparo da produção e estabelecerá as condições do trabalho, na cidade e nos campos, tendo em vista a protecção social do trabalhador e os interessados economicos do paiz.

6º -- A entrada de imigrantes no territorio nacional oferecerá as restrições necessarias á garantia da integração étnica e capacidade física e civil do imigrante, não podendo, porém, a corrente imigratoria de cada paiz exceder, anualmente, o limite de dois por cento sobre o numero total dos nacionais fixados no Brasil durante os ultimos cinquenta annos.

7º -- É vedada a concentração de imigrantes em qualquer ponto do territorio da União, devendo a lei regular a selecção, localização e assimilação do alienigena.

E' necessário portanto verificar o numero dos nacionais fixados, paiz por paiz, para que possa ser aplicada a taxa de 2%, e assim estabelecida a quota imigratoria, nacionalidade por nacionalidade.

As dificuldades na determinação dos estrangeiros entrados e pre-creados no nosso paiz afim de calcular os nacionais fixados são enormes, a vista da falta de dados correspondentes a um largo periodo. Occorre ainda dificuldades de outra monta, tal sejam por exemplo, as verificadas em o caso da Polonia. E' sabido que este paiz esteve varias décadas desorganizado e só se reconstituí após a grande guerra e consecutivo tratado de paz de Versailles. Nos ultimos cinquenta annos entraram no Brasil e se fixaram muitos poloneses, principalmente antes da reconstituição da nobre nação que tantos laços de amizade tem com o nosso paiz. Não é mesmo exagerado dizer que em certas zonas do Brasil existe largamente representado o sangue polones poia grande foi o numero de pessoas desse nacionalidade que para aqui vieram desgostosas com a situação de domínio por parte da Russia e outros países sobre o antigo território do velho império europeu, aqui chegando porem, rotulados com outra nacionalidade, nunca com um passaporte polones, pois a polonia politicamente não existia. Assim sendo, a estatística, caso não sejam tomadas medidas interpretativas de equidade, estará falsa, sendo permitida a entrada de um grande numero de russos para mais de milhares e raros polones.

Esta anomalia se dará também com a Tcheco-Slováquia, Syria e outros países.

E' necessário também attentar para o facto da Constituição Brasileira se referir aos nacionais fixados. Evidentemente sob esta rubrica devem ser incluidos:

a) -- imigrantes.

b) -- pessoas avulsas viajando em 1.º, 2.º e 3.º classes.

c) -- filhos de imigrantes registrados com a nacionalidade dos pais.

O problema é evidentemente complexo e só com calma e reflexão poderemos chegar a resultados positivos.

E' necessário tambem consigar, que, dentro do absurdo do estabelecido pela nova Constituição Brasileira, dado o pequeno contingente de ingleses e franceses fixados no Brasil nos ultimos cinquenta annos, só poderão entrar pequena quota de poucas centenas de pessoas para cada uma dessas nacionalidades tal como acontece com os americanos do norte. No caso dos americanos do norte, não será superior a cem pessoas, por anno, bom tratamento aos nacionais das tres grandes potencias que nos forneceram capitais e prestigio, sendo ainda os grandes compradores dos nossos produto.

E' de convir que, dada a desorientação, que presidiu na Assemblea Constituinte a votação das emendas sobre a imigração, ainda é pouco e poderia ser peior.

### Equilibrando as finanças orçamentárias.

Alem disso, o ministro das Finanças, resolveu criar uma taxa excepcional sobre o excedente dos lucros, afim de cobrir o deficit orçamentário.

O governo nipônico parece estar disposto a arriscar a propria existencia do gabinete, para assegurar o equilíbrio do orçamento.

O sr. Masanabu, ministro das Finanças, reduziu grandemente os novos pedidos de creditos dos departamentos da guerra e da Marinha e concordou sómente com a despesa de 150 milhões, dos 246 milhões de yens reclamados pelo ministro da Guerra, e com a de 90 milhões dos 300 pedidos pela Marinha.

Os creditos concedidos, reunidos aos creditos ordinarios de 310 milhões de yens para o Exercito e 400 milhões para a Marinha, somaram um total de 900 milhões de yens.

E' provável que o sr. I. Uchiyama ficará como conselheiro da nova embaixada.

### Embaixador do Nippon no Rio de Janeiro

Annuncia-se que o sr. Setsuzo Sawada, que acaba de ser nomeado embaixador do Nippon para o Brasil, partiu nos primeiros dias do corrente mês para o Rio de Janeiro, afim de assum